



# UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書課内

電話 0774-22-3141(内線2058) FAX 20-8776

E-mail BCH04550@nifty.com ホームページ <http://homepage3.nifty.com/uifa/>

第 50 号

平成19年(2007年) 1月

## UIFA ニュース第 50 号発行によせて 宇治市国際親善協会会長 上林春松

宇治市国際親善協会の事業、活動を協会員はもとより、広く市民の皆様にもお知らせしてまいりました「UIFA ニュース」が第 50 号を数えることになりました。また、本年は協会設立 20 周年を迎える年であり

ます。昨年、宇治市がスリランカ・ヌアラエリヤ市、中国・咸陽市との友好都市盟約 20 周年という記念の年であり、また、カナダ・カムループス市との友好交流も本年で 17 年目を迎えます。

友好都市との交流は、様々な形で年々深まってまいりました。また、友好都市との交流のみではなく、もっと多くの国々と親しんでいただくための催しも、同好の方々の協力を得ながら取り組んでおります。

協会創立 20 周年の本年は、記念事業として年間を通して、広く市民のご参加を得て、多くの国々に興味をもっていただける催しを、協会の運営委員のもと企画して参ります。

UIFA ニュースの紙面で随時お知らせ、ご報告させていただきますので、精々ご愛読の上、協会事業へのご理解、ご参加をお願いいたします。



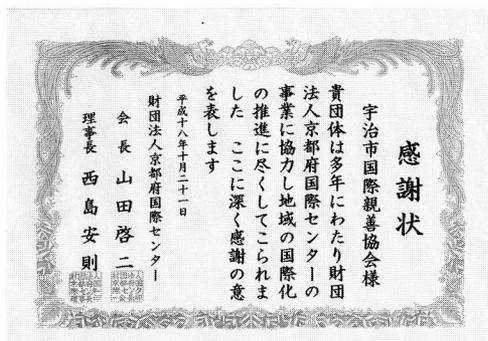
## ご報告 感謝状贈呈

10月21日(土)に宇治市国際親善協会へ京都府国際センターから事業協力団体として感謝状の贈呈がありました。

宇治市国際親善協会は、「国際文化サロン」(平成9年3月)、「きょうと探訪留学生ツアー<宇治市源氏物語の世界とお茶の心コース>(平成11年11月)、「京都府歴史めぐり・フィールドトリップ<”Uji”源氏物語の地に平安王朝人の見果てぬ夢を訪ねて>(平成12年3月)や「京都府探訪留学生ツアー<Up with People>における交流」(平成12年11月)などの同センター事業に対して積極的に共催・協力してきておりましたが、この度、こ

のような活動が評価されたものです。

この度の受賞を契機として一層、国際交流事業を推進して参ります。



## 会員募集と会費納入のお願い

平成18年度の会費未納の方は、納入をお願いします。

当協会の運営は皆様の会費によって成り立っています。

会の運営や活動を活発に行うため、よろしくをお願いします。

併せて、会員の募集をしています。

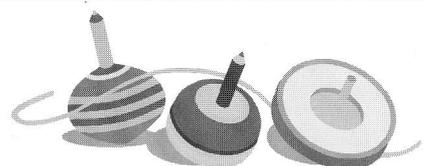
皆様方のご協力をお願いします。

会費	個人会員	2,000円
	団体会員	5,000円
	法人会員	10,000円

振込先 京都銀行宇治支店普通預金

67845

受取人は「宇治市国際親善協会」です。



## 会員報告

### 開催報告 第十回 宇治切手展

### 宇治郵趣倶楽部会長 辻 義政 記

郵便趣味文化を通じて中国文化交流の推進を図ろう

郵便切手の収集等を通じて、郵便趣味文化の向上と会員相互の親睦を図ることを目的として1997年9月に宇治市で設立しました私達宇治郵趣倶楽部は、郵便趣味文化の普及に努め、地域文化の向上、発展のお役に立てられる活動をするを特色としています。私達は設立以来、年に一度会員の作品発表の場として切手展を開催してきました。

1998年2月、機会があって、宇治市との友好都市である中国咸陽市を訪問し、「第1回日本宇治—中国咸陽友好合同切手展」を開催し、この時咸陽市集郵協会と切手による交流の覚書に調印しました。

以後この覚書に基づき隔年訪問交流と郵趣作品の交換という相互交流を行い、両市で友好合同切手展を開催し続けてきました。交流途中で訪問交流は一時中断の時期はありましたが、それでも作品展示の切手展は続けてきました。

2005年宇治市が咸陽市訪問団を結成して公式訪問団の派遣をされたとき、(財)日本郵趣協会荒木裕美宇治支部長がこの公式訪問団に参加し、咸陽市で開催された第9回友好合同切手展に公式訪問団と一緒に参観しました。そして熱烈な歓迎を受け、第10回友好切手展の宇治開催を約して帰国しました。



千軍昌咸陽市長、久保田勇宇治市長、刘延安咸陽市集郵協会団長と団員4人、辻義政郵趣倶楽部会長、荒木日本郵趣協会宇治支部長と…。

2006年は宇治市と咸陽市が友好都市盟約を締結して20年という節目の年に当たり中国咸陽市から締結記念日の7月24日、千軍昌咸陽市長を団長として公式訪問団の来宇が決まり、その中に「第10回宇治—咸陽友好合同切手展」に参加する咸陽市集郵協会の刘延安氏を団長とする一行5名と卓球選手団、及び市民訪問団などの訪問が決定いたしました。そこで宇治郵趣倶楽部では毎年11月開催している切手展を特別繰り上げて7月22日から24日の3日間宇治公民館で開催するように変更し、第10回日本宇治—中国咸陽友好合同切手展の開催となりました。切手展では中国の出品作品を含めて、約12,000枚の切手を展示し、双方で第1回から10回までの切手展の経緯をあらわす作品を中心に自慢の作品を展示しました。7月24日咸陽市公式訪問団の一行は宇治市役所で公式訪問挨拶された後、咸陽市集郵協会の5名は宇治郵便局を訪問して郵便局を参観し、宇治市内を観光された後宇治公民館に一同笑顔で入場となりました。双方お互い挨拶後に記念カバーの

交換やサイン記入、押印、記念撮影、切手展参観と大勢で交流の輪が出来ました。しばらくして公式訪問団の千軍昌市長を先頭に公式訪問団一行と宇治市長ほか関係者が到着され、一同拍手でお迎えいたしました。早速両市長と共に記念撮影や握手交換、サイン記入、作品参観等で会場は笑顔で埋め尽くされました。中国と日本の友情の架け橋となった「朱鷺」の中国作品や、友好都市盟約の締結に至った記念写真を指して先輩を称える談笑が続きました。その日の夜、京都醍醐プラザホテルの歓迎晩餐会で歓迎のレセプションを開き、双方の贈呈品交換し合い、歓談して遠来のご苦勞を称え再会を約して幕となりました。双方とも今後も一層の交流の花が咲き続けることを誓い合いました。

最後にこのように歓迎の機会を大成功に導いていただき、お世話になりました宇治市関係各位の方々に厚く御礼申し上げます。

**アジアお茶まつり スリランカ・テ** (社) アジア協会アジア友の会 宇治地区世話人 田中紀代三 記

私たち、(社) アジア協会アジア友の会宇治・京都地区世話人が中心となって毎年行っています、「アジアお茶祭り」が今年も開かれました。今までに、近畿在住のインドネシア・フィリピン・中国・カンボジア・タイ・ベトナム・ラオス・ネパール・ウイグル・スリランカ・インド・バングラデシュなどアジアの人々に声を掛け、各国のお茶やお菓子、時には軽い食事を楽しみながら交流をしてきました。

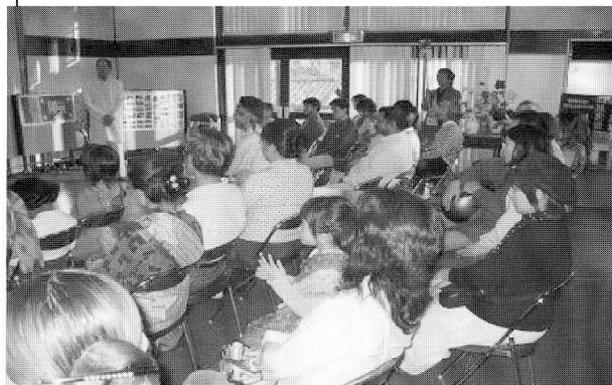
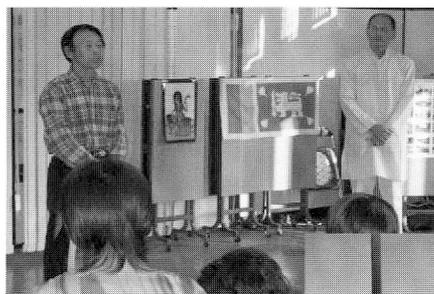
日本は同じアジアに位置しながら、日本人の多くがアジアをよく知らない。テレビ・雑誌・映画などで、どうしても西ヨーロッパやアメリカやオーストラリアの情報が発信されがちなのも影響しているかもしれません。アジアの国々への旅行者が増えているとはいえ、興味・関心も少ないように思えます。アジアの発展途上国における民衆の生活や環境の向上をサポートすることを活動の中心にしている我が「アジア協会アジア友の会」にとって、“アジアへの関心と知識”を多くの人に持ってもらうことが大切だと考えました。

私たちのご近所に住んでおられるアジア各国の人々と気楽に、お茶でも飲みながら交ることで、アジア各国の習慣や言葉や宗教や生活などを知ることができるのではないかと。お茶はアジア共通の文化であります。タイではほとんどお茶を飲まないと言ったときは困りましたが・・・、我が宇治は日本最高のお茶所です。古来、「茶のみ友達」という言葉があるように、アジア各国のお茶を飲み、お菓子を食べながら親しく交流

し、アジアをもっと知り、その上で、何らかのサポートが出来るようになれば、と言う趣旨で12年間続けてきました。

今年は、友好都市(ヌワラエリヤ市) 盟約締結20周年を迎えたスリランカに焦点を当てた企画を実施しました。京都・宇治在住のスリランカ人による文化の紹介やスリランカの子どもたちの絵画を宇治市からお借りして掲示したり、宇治にある「スリランカ友の会」の皆さんによるスリランカ舞踊などのプログラムと並行して、スリランカのお菓子やお茶、そして日本のお抹茶、煎茶、和菓子などを楽しみました。

各国の人々を「お客さん」として招待するのではなく、私たちの活動の趣旨を理解いただいた上で、いわば「ボランティア」として参加・協力してもらっています。私たちと同じボランティアです(だから謝礼金は払いません)。そんな外国人ボランティアの中から、私たちの活動に深くかかわる人が出てきていることは、嬉しいことです。宇治市民を中心に、毎年150名から200名の参加がありますが、若い人々の参加をどう実現するかが大きな課題でもあります。地元の高校に呼びかけてきましたが、今後に期待したいと思っています。



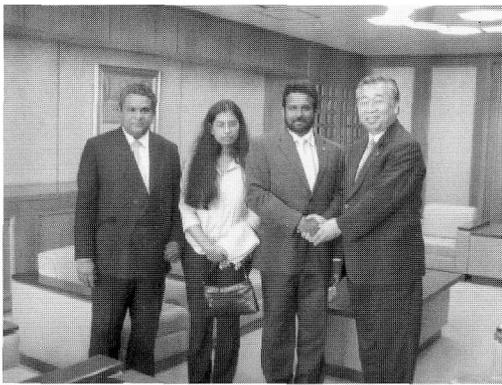
**会員報告**

## 駐日スリランカ大使来たる！

「友好20年、今後も交流を・・・」

10月19日、ランジット・ウヤンゴダ駐日スリランカ大使夫妻が宇治市役所を訪れ、久保田勇宇治市長と歓談。宇治市と友好都市盟約を締結しているヌワラエリヤ市との交流促進に向け意見を交わしました。両市は昭和62（1986）年4月に友好都市盟約を締結。同大使は、20年間に亘って相互訪問や文化、教育などの国際交流を続けてきたことを振り返り、「消防車やパソコンなど宇治市のサポートに感謝している。津波の災害時には政府をはじめ多くの日本人の援助を頂き、80パーセントが復興した。コミュニケーションが互いの理解と信頼を深める。この関係が未永く続くことを願います」と、市長も「スリランカ友の会をはじめとする市民間交流は活発に行われている。相互理解事業

に取り組み、友好の絆を深めていきたい」と話しました。



## ヌワラエリヤ市図書館パソコン教室開設

ヌワラエリヤ市から喜びの声が届きました！

ヌワラエリヤ市と友好都市盟約を締結して二十年が経過しました。

最近には派遣する環境が整わない為ヌワラエリヤ市を公式訪問団が訪れていませんが、この度、親善協会では市の中古パソコンを贈呈する取り組みをしてみました。スマトラ沖地震・津波による被害が発生して一時混乱もしていましたが、落ち着き取り戻したことから昨年三月初旬にパソコン二十五台を発送しました。スリランカ地方選挙による地域混乱の便りも

届きましたが、青年海外協力隊（JICA）松本亮平氏の協力を得て、五月半ばにヌワラエリヤ市に到着したとのお礼の便りを受けました。そして、チャンダナ・ヌワラエリヤ市長さんからは、ヌワラエリヤ市図書館に設置したコンピュータ教室を県知事や多くの関係者が列席のもと開所式典を開催し、併せて、ヌワラエリヤ市のホームページを開設したとの喜びに報告が届きました。今後も、交流促進の取り組みを進めて参ります。

## 雑感雑観

### 奉仕活動から得た感謝の思い

平井晶子（国際ソロプチミスト宇治）

宇治市と友好都市である中国咸陽市、その中でも最も貧しい地域で黄土高原の農村地帯にある永平小学校に図書館を建設し、図書と共に寄贈したのは2003年9月。職業を有する女性による国際的な奉仕団体として、国際ソロプチミスト宇治は1977年に認証されて以来、地域はもとより国の内外において奉仕活動に従事して参りました。25周年を迎えた2002年、海外の子供たちに目を向け、独自の奉仕事業を計画致しました。また同時に、宇治市の推進されている国際交流の一助にもなればとの思いから中国咸陽市を選びました。しかし、言葉や習慣の違う地域への活動は単なる熱意だけでは実現出来るものではありません。長年に亘り活動されている「咸陽の子供たちに本を贈る会」の方々の多大なる協力のもとに成し得た事に、今あらためて感謝の思いです。様々な困難を経て2003年3月起工式、9月竣工式と二度に亘り現地を訪れました。咸陽市から北西に車で2時間余の道程。いく

つかの小さな町を通り、茶褐色の大地を走り、ようやくたどり着いた永寿县永平郷の寄宿制小学校。農村地帯では通える距離の学校はなく親元を離れての寄宿生活。それでも子供たちは元気一杯大きな歓声を上げて私達を迎えてくれました。煉瓦造りの平屋建て、床面積198平方メートルの図書館に1800冊の本を書棚に並べる子供達の姿を見て、勉学に励み、豊かな人格を築き、常に世界に目を向け、未来の平和な社会のリーダーとなってくれるであろうと夢を馳せました。

その後、毎年図書の充実を図り贈本を続けて参りました。今年度クラブも30周年を迎え「継続は力なり」を実感しております。ソロプチミストの活動には国際交流に関わることが多くあります。そして「他を見て我が身を知る」事がよくあります。特に未来を担う子供たちには国際交流の機会を通じて、日本の社会に生きる自分たちが如何に恵まれているか、当たり前と思っていないだろうか、感謝の気持ちを忘れていないだろうか・・・考えて欲しいと思います。国際親善や国際交流が豊かな人間形成の一助になることを私は願っております。